

西光寺のしだれ桜

西光寺に毎年春になると、美しい花を咲かせる古木のしだれ桜が本堂に向って行く参道の左側にあります。

昔々、どうしたことか樹齢 100 年のしだれ桜が花を咲かせなくなったことがありました。

和尚様は、今年こそは花が咲くだろうと楽しみにしていましたが、春が来ても花は咲かなかったのがっかりしました。

そして、年をとってしまったのでしかたがないと思いながらも、しだれ桜を切る決心ができずにいました。

ある日、和尚様は、花をつけない年老いた桜を眺めて

「可哀そうだが、明日はお前様を切ってもらうことにするぞ」

としだれ桜に話しかけました。

その夜、ぐっすりと眠っていた和尚様の夢に桜の精が現れて、

「春には、再び花を咲かせますから、どうか私を切らないでください」

と悲しそうな顔でお願いするのです。

和尚様は、桜の精の頼みを聞き、切るのは来年でもいいと思いました。それから、毎日

「春には、花を咲かせておくれ」

としだれ桜に話しかけておりました。

和尚様がしだれ桜をよく見てみるとたくさんつぼみを付けていました。

そして、春になると見事な花を枝いっぱいにつけました。和尚様には、春風に枝がゆれると桜の精がうれしそうに踊って、

「私を切るのを止めてくれて、ありがとう」

と言っているように見えました。

和尚様がこの話を大塚松洲という墨で書や絵を書く文人に話すと感心して漢詩をつくりました。

詩

読み方

老桜元是在因縁

老桜元よりこれ因縁なり

百年免得樵翁斧

百年まぬがれえたり樵翁の斧

春風千枝爛漫時

春風千枝らんまんの時

幽香偏向佛前吐

ゆうこうひとえに仏前に向ってはく

但怕鐘磬聲相振

ただおそるしょうけいの声相ふるい

清浄境裏動花神

しょうじょうきょうり花神を動かすことを

そのわけは、「西光寺のしだれ桜は木こりの斧で切り倒されることもなく 100 年余りの樹齢を重ねてきましたが、これも何かの因縁によるものでしょう。春風に誘われて花が咲きそろうほのかな香りが仏前にただよってくる。鐘や磬の音が境内に響き渡れば花の精も、はっと夢からさめて花を咲かせたのでしょう。」再び花を咲かせたしだれ桜を誉め称えると詩を作りました。

西光寺のしだれ桜は樹齢 250 年以上と言われていますが、今年も、美しい花を咲かせて、お参りする人々の心を和ませています。